

明石川と共に生きる

～外来種問題・川は私たちが川り(変わり)、私たちも川で川る(変わる)～

西岡龍之介・佐野こころ・神田大和(玉一アクアリウム)

私たち兵庫県神戸市立玉津第一小学校の玉一アクアリウムは、在校生の小学3年生から卒業生の大学生まで約30人が活動しています。

私たちは、学校の近くを流れる明石川で「明石川と共に生きる」という思いで、1年を通して夏も冬も1週間に1度は明石川水系の水の中に入って生き物を捕ったり観察などの調査をして、外来種の駆除と在来種の保護をしています。

20年近く前から先輩たちがこの活動をずっと続けてきたので、今の明石川は生き物でざわめく川になっています。

川で外来種を完全に駆除をするのは難しいですが、オオクチバスやブルーギルなどの外来種の捕れる回数がかなり少なくなり、在来種にあまり影響のない位に減ったのかなと思います。

それでも、ブルーギルの適応力には驚きます。

明石川の上流から下流で時々捕れるのはもちろんですが、昨年3月の明石川源流調査のときには、水が少ししか流れていない源流域の溜まりに約20匹のブルーギルの幼魚がいることがわかり、その溜まりを山の土で濁らせると窒息をして浮いてきて、一網打尽にできました。

この場所には、ヘビトンボやカワゲラやトビケラやカゲロウなどの水生昆虫の幼虫がたくさんいて、湧き水に生える希少なカワモズクという藻も生えているので、これらを食べていたと思います。

源流のブルーギルは、上流から更に泳いで上がってきたのか、源流のすぐ近くにため池があるので大雨の時にため池の水があふれて一緒に流されてきたのかのどちらかだと思います。

また、明石川河口の釣りによる調査でも、以前に先輩が海から10m位しか離れていない河口の岩場でブルーギルの成魚を釣ったそうです。

釣った場所は、汽水というよりほぼ海水で、強い引きと魚の色や形からクロダイの若魚と思って釣り上げたらブルーギルの成魚で「もう海水魚やん!」と思ったそうです。

タモ網などで駆除をして外来種が減ると、在来種のオイカワの幼魚が爆発的に増えて、玉一アクアリウムの中には「多過ぎて気持ち悪い」という人もいましたが、明石川は小さな川なので食べる餌の量にも限りがあって、今は少し減ってちょうど良いバランスに整ってきたと思います。

私たちは、いつも川の中に入って調査をしているので、川底が耕され汚れが流されて、初夏から夏には調査が終わってきれいになった川底にオイカワのペアがすぐに来て産卵し、藻やこけもたくさんたべてくれるので、明石川が更にきれいになり今までいなかったきれいな水にすむブユの幼虫なども見られるようになりました。

オイカワの群れが集団で川底の藻やこけを食べている様子を見ると「本当にきれい好きな

んだな」と思います。

明石川中流の本流では駆除の結果、外来種のアメリカザリガニが減ってミナミテナガエビやヒラテナガエビが増えてきましたが、明石川水系の田中川の用水路や明石川とつながっている平野大池の用水路では、まだまだアメリカザリガニが多くて用水路でもアメリカザリガニの駆除を続けると、アメリカザリガニが減ってテナガエビが増えてきました。

また、平野大池の用水路では昨年初めて用水路の側壁に産みつけられた外来種のスクミリンゴガイのピンク色の卵塊を見つけて駆除をしました。

昨年びわこルールキッズで琵琶湖の瀬田川で駆除釣りをした時に見て、アクアリウムのメンバーが駆除をしていたので、すぐにスクミリンゴガイの卵塊とわかりました。

卵塊は駆除したけれど、その後親貝は見つかっていないので、次に平野大池の用水路で調査をする時も注意深く探そうと思います。

外来種のアカミミガメは、動きも逃げ足も早くて深い所にいるためなかなか捕まえられませんが、神戸市自然環境課にカメ捕獲用の仕掛けを借りたり、動きが鈍くなり冬眠している冬にまとめて捕ることで数が減ってきました。

それから、淡水ガメでは明石川水系に一番多くいたはずのクサガメがなぜかかなり減っていて、調査の時に肉が食べられたクサガメの甲羅が河原にまとまって置いてあり、不思議に思っていたのですが、専門家の人に聞くと、アライグマに食べられた可能性が高いと教えてくれたので、ニホンイシガメも食べられていないかととても心配です。

外来種は植物もそうで、明石川沿いに人がわざわざ土手に「きれいな花が咲くから」とオオキンケイギクを増やして植えていて、理由を説明して抜かせてもらうまでに随分時間がかかりました。

オオキンケイギクは、放っておくと、あっという間に川の土手を覆ってしまい、魚でいうとオオクチバスやブルーギルのように危険な植物ですが、きれいな花を咲かせて強くてよく増えるので花好きの人にはとても親しまれていて、危険な外来種だと知っている人は少なく、いかに危険な外来種と知ってもらうことが大切だと思います。

私たちは、明石川で先輩や後輩や仲間と調査活動をする中で、環境や生き物に対する思いやお互いを思いやるやさしい気持ちなどが芽生え、私たちも明石川のおかげで変わることができました。

元々、生き物が好きだった先輩たちは、明石川や生き物に更に関心を持つようになり、玉一アクアリウムや明石川調査の経験を生かして、環境や生物関係の高校や大学に進む人がとても多いです。

遠くの大学にいる先輩は、明石川水系の活動で外来種の駆除を続けた結果、その成果として在来種が増え、その様子を実際に見て環境保全の分野に興味を持ち、今でもため池の外来種駆除や珍しい水草の保全活動を頑張っています。

これからも、知識と技術を身につけて、色々なことを経験して先輩たちに負けないように追いつけるようにがんばります。

私たちは、これからも明石川と共に生きていきます。